福井県における郷土史研究の動向　～平成25年～

福井県立図書館では、平成26年度中の「福井ふるさと文学館（仮称）」の開設に向け、郷土資料や雑誌等の移設を行った。あわせてシステム更新も行ったが、これにより同じ建物内にある福井県文書館とのカード共通利用、資料の一括検索、デジタルアーカイブの充実が実現した。

次に平成25年に刊行された主な出版物を紹介し、県内郷土史研究の動向としたい。

一、宗教・自治体史・地域史等

坂井市三国町の神明神社境内にある味坂神社の氏子三浦三博氏は、奈良時代に建立された同神社の歴史を綴った『味坂神社の復興～１２９６年の時空を超えていま』を出版した。

大野市は、『大野市史』の第14巻「通史編下　近代・現代」を発刊した。１８７１（明治４）年から２０１３年3月までの同市の政治・経済・文化の歩みをつづり、地域の特徴である鉱山と繊維、電源開発の歴史もクローズアップした。

地域史も数多く出版された。福井市文殊地区の「村の歴史懇話会」は『温故叢談９』を発刊した。今回のテーマは「昭和三十年代の思い出」で会員たちが心に残っていることを思い思いに執筆した。福井市末町の住民有志は、冊子『伝えたい　のこしたいふるさと“末”』を発行。８年をかけ末町に住む人々の暮らしや先人の偉業、文化財など幅広く調査し、写真やイラストを豊富に盛り込んだ。小浜市郷土研究会は、かつて若狭の商人がサバを運ぶのに使った「鯖街道」についてまとめた冊子『京道若狭と都をつなぐ鯖の道』を発刊。会員自らが撮影した街道の写真を随所に織り込んだ。元小浜市立図書館長の杉本泰俊氏は『若狭の歴史と文化-中山寺との関連から-』を刊行した。小浜市阿納尻の倉谷千恵子氏は、同市の由来や歴史についてまとめた『内外海（うちとみ）の記憶』を出版。元小浜市議の石橋和彦氏は、北朝鮮による拉致被害者夫妻の失踪から帰国後10年までの記録を『若狭小浜の拉致事件』にまとめた。大野市の小山荘歴史の会は『山城は語る　旧大野郡城跡めぐり』を刊行。各城跡ごとに写真と手書き絵図で詳しく解説している。大野市の吉田八郎氏は大野市上黒谷地区と小山地区の暮らしや歴史をまとめた『ふるさと』を出版。勝山市史編さん室の山田雄造氏は、戦国末期から幕末へと移り変わる勝山城下の姿を追った『城下絵図に見る勝山町の変遷』を出版。市内に残る数々の絵図を詳細に調べ検証した。越前市の古文書学習グループ「武生古文書の基礎学習会」は、『武生古文書覚』第16集を発刊。２年をかけ同市に関わる文書などを読み解き、解説を加えた。元町会議員の笹下利行氏は、旧越前町の誕生から閉町までの50年間を記録した『内から見た越前町・ともに歩んだ五十年』を出版した。越前町朝日地区の住民らでつくるまちづくりグループ「越知山泰澄塾」はコラム集『越知山泰澄の道NO・３-調査研究コラム２０１３-』を発刊。泰澄大師と修行地である同町の越知山をテーマに会員がそれぞれの研究成果を紹介している。美浜文化叢書刊行会は、戦後間もない頃に小学校の教師らが作成した社会科教育用の資料をまとめた『山東の歴史と風土』を発刊。当時の社会状況や民俗などがわかる貴重な資料にもなっている。美浜町教育委員会は、『若狭国と三方郡のはじまり』を刊行した。若狭町田井の梅ヶ原区の住民有志らは、地元の歴史や生活、産業などの変遷を冊子にまとめた『河内風土記』を製作した。「河内」は同区の元の集落名。

二、史跡調査報告書　各時代史

福井県教育委員会は『石盛遺跡』、『安丸官人遺跡』、『大牧遺跡木部新保遺跡』、『舟寄遺跡』、『曽根田遺跡』、『太田・小矢戸遺跡』などを、勝山市教育委員会は『三谷遺跡』を、鯖江市教育委員会は『弁財天古墳群』

を、越前市教育委員会は『越前国府関連遺跡・岡本山古墳』を、若狭三方縄文博物館は『ユリ遺跡　2』をそれぞれ刊行した。

中日新聞福井支社の吉川博和記者は、国特別史跡・一乗谷朝倉氏遺跡にスポットを当てた『戦国朝倉～史跡からのレポート～』を出版した。一昨年五月から半年間にわたって、新聞に掲載された連載記事をまとめたもの。

三、人物

福井県立こども歴史文化館は『ふくいの先人たち　古代・中世』を刊行。シリーズ4弾となる同書では、福井に住んだとされる継体天皇や紫式部から、戦国時代の朝倉義景や大谷吉継までの17人を取り上げ、わかりやすく紹介している。福井市の新田塚郷土歴史研究会は、昨年に引き続き『越前の新田義貞考　続』を刊行。元大学教授の山下英一氏は、明治時代に福井に招聘された米国人教師グリフィスに関する研究書『グリフィスと福井』増補改訂版を34年ぶりに刊行。元福井新聞社論説委員長土田誠氏は中国の文豪魯迅の恩師として知られる医学者藤野厳九郎に関する新著『医師　藤野厳九郎』を刊行した。

四、各分野団体史

福井県高等学校ＰＴＡ連合会は、『結成５０周年記念誌』を刊行。福井県文化振興事業団が『設立３０周年記念誌』を発行。運営しているハーモニーホールふくいで行った自主公演の一覧が掲載されている。福井市シルバーバレーボール連盟が、『連盟創立２０周年記念史』を刊行。11月に解散した県内最大の慈善団体財団法人積善会が、これまでの助成、支援の歴史をまとめた『積善の譜　四十三年史』を発行した。

五、教育・民俗・文化財

福井県立大学は、同大キャリアセンターの中里弘穂准教授の編著による県民双書『若者のキャリアを考える』を発刊した。２０１１年度に開かれた講座「ふくいの若者のキャリア形成を考える」に資料を加えてわかりやすく編集した。福井新聞社は、新聞に連載中の「おしえて！ふくい子育てマイスター」を収録した育児の手引書『ハッピー子育てＱ＆Ａ』を発刊した。子育てマイスターは、保育士や医師ら地域の専門家に登録してもらい、子育て家庭をサポートする県の制度。県内で「希望学」の調査を行ってきた東京大学社会科学研究所が、４年間の研究成果をまとめた『希望学あしたの向こうに -希望の福井、福井の希望』を出版した。福井新聞に約1年間にわたり連載した研究者のエッセーを中心に、暮らしやすさが全国上位とされる福井県の希望をさまざまな角度から掘り下げる。

福井市の元教員青木捨夫氏は、越廼地区の伝説や民話を一冊の本にまとめた『こしの村伝説』を出版した。地元の越廼中の生徒たちに郷土愛を持ってもらおうと作成した。若狭町伝統文化保存会は、同町伝統文化実態調査報告書『つたえつなぐ』を発行。4年の歳月をかけ、町民一丸となって完成させた一冊で、約１５００件の伝統・年中行事など「地域の宝」をまとめている。若狭路文化研究会は故・大谷信雄氏の主要著書を編集・合本した『島山神社社記・大島村漁業組合沿革誌』を刊行。福井放送は、創立60周年記念に『ふくい彩り百景』［映像資料］を作成した。平成24年に放送した番組を、福井の四季、伝統工芸、歴史的建造物に再編集したもの。天理大学の安井眞奈美氏は、昭和51年度に調査された資料の翻刻『敦賀半島の産小屋・月小屋』（塩津三治／著）を発行。

福井県無形民俗文化財保護協議会は、『ふくい無形民俗文化財　第35号』を刊行した。

六、自然・工業・産業・美術

自然関係では、勝山市の理科教諭らが、恐竜化石が発掘された白亜紀前期の地層をテーマにした副読本『ジオパーク探検マップ』を作成し、市内の全小学６年生に配布した。勝山市のＨＰでも公開されている。一方、福井県立恐竜博物館は恐竜の入門書『これならわかる！クイズ式たのしい恐竜学』を発行した。小浜市今富地区の住民グループが企画した『台風13号の記憶をたどれば』が発刊した。60年前の台風13号の被害や記憶を残そうとまとめた。

工業関係では、福井県は『大津呂ダム誌』を発刊した。24年の歳月をかけて完成した同ダムの貴重な実績記録を収めたもの。福井市歴史のみえるまちづくり協会は、『福井市歴史的建造物ガイドブック』を13年ぶりに改訂し、国の文化財に新たに登録された建物など約20施設について加筆した。勝山市教育委員会は『松文産業旧女子寮調査報告書』を刊行。同市の繊維産業を支えた女子機織り工員「織り子」らがかつて暮らし、経済産業省の近代化産業遺産にも指定されている築80年の「松文産業旧女子寮」の取り壊しが決まったため、調査報告を残すことになったもの。はたや記念館ゆめおーれ勝山は『発見！わが家の「はた織り」さん』を発刊。古代から近代まで使われていた「地機（じばた）」という手織機のルーツや各地の形の違いなどをまとめた。

産業関係では、敦賀市の井上脩氏は『年表　敦賀‐港と鉄道重点』をまとめた。若狭町次世代定住促進協議会は、町内の世界に誇れる企業を若い世代に知ってもらおうと『若狭町事業所ガイド』を初めて製作した。

美術関係では、戦後の福井で数少ない女性前衛作家として活動した橿尾道子氏（１９３３～８８年）の画集『橿尾道子画集　燃える季節』を夫で造形作家の橿尾正次氏が出版した。原始的で力動感や柔らかな雰囲気を持つ前衛絵画56点を収録している。

七、文学

仁愛女子短期大学附属図書館は、『津村節子文学室資料目録』を刊行。同大学寄託の作家津村節子関係資料約４５００点が、福井県に移管されるにあたり改めて目録を作成したもの。

八、歴史研究施設の動向

最後に各施設の主な特別展などを紹介する。福井県文書館は、「新発見！福井城下絵図のヒミツ」、「80年前のふくいのすがた‐陸軍大演習の写真と地図」、福井県立歴史博物館は、「写真が語るだるま屋百貨店」、「橋本左内書状‐書状から見える幕末の福井と日本‐」、福井県歴史民俗資料館は、「幕末小浜藩の銃」、「トリハマの土器が語るもの」、「モノから読み取る考古学」（なお同資料館は、リニューアル工事のため平成25年９月から平成26年夏ごろまで休館中）、福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館は、「戦国のまなびや‐朝倉文化　文武を極める」、福井市立郷土歴史博物館は「麗しきチベットの仏たち」、「養浩館と福井藩の庭園」、「松平春嶽の科学器具」、「甲冑の美」、みくに龍翔館は、「本多成重と丸岡藩」をそれぞれ開催した。

以上、紙面の都合上により、個人史、抜刷など割愛した資料や、漏れた資料についてはお許しいただきたい。